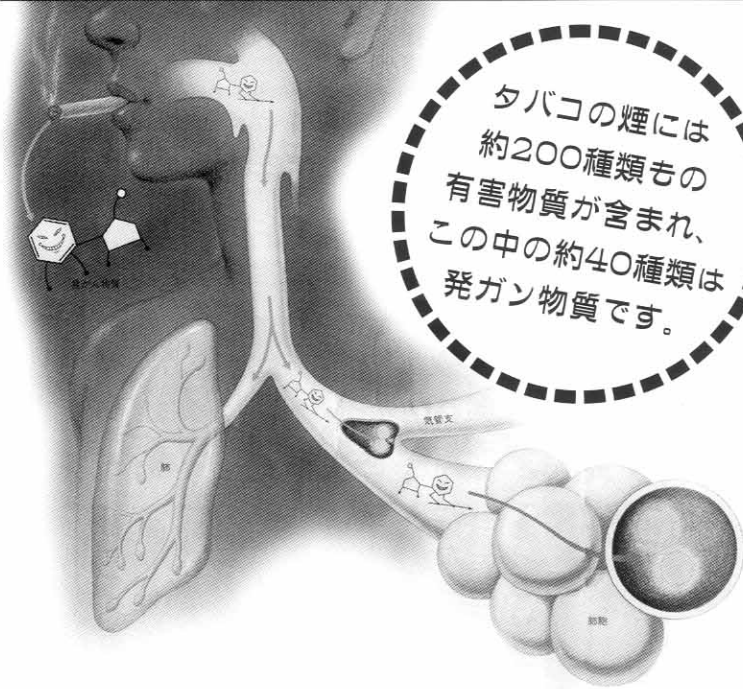


15歳前からタバコを吸い始めた人が 肺ガンになる危険性は30倍にもなってしまふ!!



タバコの煙には
約200種類もの
有害物質が含まれ、
この中の約40種類は
発ガン物質です。

生まれたての赤ちゃんの肺は、君たちの年齢になるまではユックリとしたスピードで発育を続けています。

赤ちゃんの頃は、肺胞と呼ばれる空気が入り出す袋はとても小さく、その数も少ないのです。中学生になった頃から肺の細胞は元気よく分裂して数を増やしていきます。

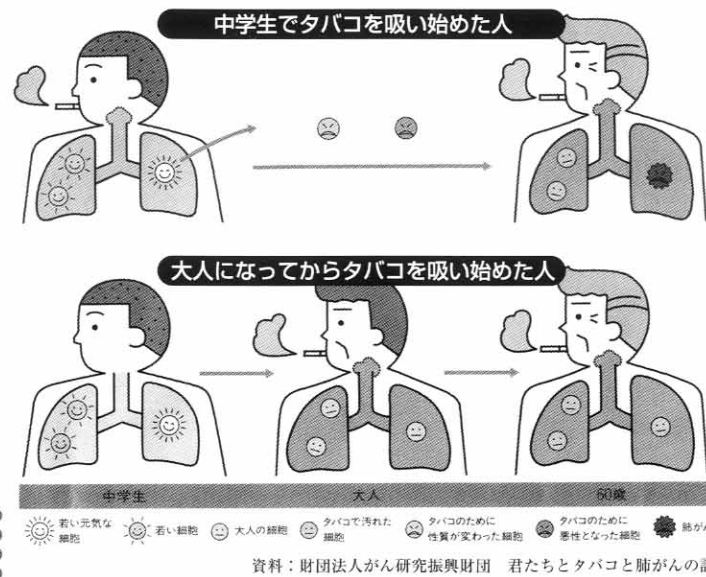
分裂を繰り返す君たちの年齢の肺胞は、外から入ってくるいろいろな物質を受け入れやすく、刺激にも感じやすい性質を持っています。だから、タバコの中に含まれる発ガン物質もどんどん受け入れてしまい、感じやすい細胞は次第に肺ガンの芽に性質を変えてゆくののです。

ガンの芽から肺ガンへ

若くていちばん元気がよかった細胞は、発ガン物質の作用によって次第に悪い細胞となり、あるときから急に激しく分裂して仲間を増やし、ついには肺ガンとなります。

大人になると元気な細胞は、肺の中にほとんどないので、ガンの芽はできにくいのです。

20歳になるまで、タバコを吸ってはいけないと法律で決められているのは、君たちの元気な細胞をガンの芽から守るためなのです。



他にもこんな悪い影響がでます!

- 成長ホルモンの出る量が少なくなるため、成長がさまたげられてしまいます。
- 血圧や心拍数が上がってしまい、心臓に負担がかかります。
- 血管が縮んでしまうため、血液の流れが悪くなり脳の働きも低下してしまいます。
- 肺の機能が低下してしまい、持久力がなくなり、運動をすると息切れします。
- そのままタバコを吸い続けると、心臓・肺・胃などの重要な病気になる危険性が高くなります。

資料：社団法人静岡県薬剤師会 誘われたら「NO!」



家庭では生活態度の乱れや言葉遣いなどから子どもの変化に気づき、喫煙がみられたら、初期の段階で親は毅然とした態度で喫煙をやめさせるように対処していく必要があります。それができなければ、病院にかかるとなると、将来のある子どもをまず親が守りましょう。

「中学生がそんなにタバコを吸う?」南陽中学の方から、青少年の喫煙の害についての記事を頼まれた時、最初に思ったことでした。そこで、ネットで中学生の喫煙率について調べたところ、びっくり。中学一年生でタバコを吸ったことがあるのは20%。もっと驚いたことに、毎日吸うのが24%。一クラスに一人は毎日吸う子がいるということだ。小学生の時に、親のタバコを試しに吸ってみるのは、自分にも経験がある。しかし、毎日吸うとなると、おこづかいからタバコ代をひねり出している訳だ。こりゃとんでもないことだ。タバコを吸えば、癌や心臓病、くも膜下出血、胃潰瘍から肺気腫(酸素ボンベを転がしながら歩いている人の何割かはこの病気)まで、ありとあらゆる病気になるやすい。



白鳥内科医院
白鳥 政之 先生

タバコは体と頭によくありません。しかもそれが吸いだしたときにはわからないから始末が悪いのだ。しかも、喫煙開始が早いほど、その害は増幅されるのだ。代表例では、肺癌になる率は、二十歳以降に吸い出した人の6倍にも及ぶ。こう聞いても吸い続けるのか? そうなのだ。問題なのは、喫煙開始年齢が低いほどニコチン依存が強く、禁煙が困難。「たばこは二十歳になってから」なんと上手なキャッチコピーなんだ。タバコのイメージをおとなのイメージとかぶせることによって、背伸び願望のある「子供」に、うまくとりついているのだ。

「どうしてタバコを吸うの?」
「答えは決まってる。」
「なんとなく、悪いと分かってるんだけど、やめられない。」
「タバコは吸い出さないに限る。」
今日は無事に過ぎてても、50歳で、脳卒中手足麻痺はきつすぎる人生だ。君もいつかは50歳になる。病院で「お酒、タバコは?」と聞かれる。「お酒は飲まないけど、タバコは20本。」
「ああ、そう。逆だったら良かったのにね。適量のお酒なら健康にいいのに。」
こんな言葉、聞きたくないよね。

タバコを吸わない人と比較した喫煙者の死亡率

喉頭ガン	32.5倍	喉頭ガン	3.0倍
肺気腫など	2.2倍	食道ガン	2.2倍
虚血性心疾患	1.7倍	肺ガン	30倍
肝臓ガン	1.5倍	胃潰瘍	1.9倍
膵臓ガン	1.6倍	胃ガン	1.5倍
		膀胱ガン	1.6倍

それでもタバコを吸いますか?